＜京都産業学センター・共同研究プロジェクト紹介＞

京都の工作機械メーカー（株）カシフジの研究

経営学部教授
山西　万三

京都は、ものづくり都市といわれてきました。織物、陶磁器、仏壇・仏具などをはじめとして数多くのものづくり伝統産業が、京都には息づいています。京都には、伝統産業を揺り籠として育った著名企業もいろいろあります。京セラ、村田製作所、松風、などは清水焼などの焼き物の技術を基礎に発展した企業です。仏具製造を源流とするのが島津製作所です。カシフジの創業者、樫藤留三郎氏も島津製作所に勤めておられて独立された人です。

内陸にある京都は、港湾都市のような重化学工業の立地には適していません。京都のものづくりとしては機械産業など内陸型工業に期待がかかります。カシフジはホブ盤と呼ばれる歯車を作る工作機械を我が国ではじめて国産化した企業です。

工作機械は、機械を作るための機械です。そのため、マザーマシンとも呼ばれます。カシフジは従業員 230 名ほどの中小企業ですが、すぐれた技術を保有し、ホブ盤の国内シェアトップ企業であり、その製品は海外各国にも多数輸出されています。

カシフジを総合的に研究することによって、中小企業における技術技能継承問題、人事労務問題、製品戦略等に関する知見が得られる期待があります。

2012 年度（初年度）の当プロジェクト研究では、日本工作機械見本市の見学等も含めて資料蒐集を行うとともに研究会の部分的成果を中間報告としてまとめているところです。

2013 年度の当プロジェクト研究は、カシフジの山中康司氏のアドバイスをいただきながらすすめました。カシフジの競合企業である島根県の清和鉄工へのヒヤリングや、京都・宇治にある長島精工へのヒヤリング実施によって工作機械産業への知識を深めました。また、関連して、長島精工社長には龍谷大学経営学部講義「京都企業論」でご講演をいただきました。

これらの成果の一部は、京都産業学センター発行のテーマ別研究ブック

レット第１巻（テーマは京都企業の人事労務）に、カシフジの技術・技能継承と高齢者雇用をテーマとする論文として掲載予定となっています。

なお、当研究プロジェクトは、2013 年度で終了し、2014 年度より、京都の金属・機械産業の研究というより大きな枠組みの研究プロジェクトの中で、研究継続をして参りますので、皆様よりのご支援をお願い申し上げます。